

第2回勉強会『コトでつながるまちづくり』

～久留米 chietsuku プロジェクトの取り組み～

第2回目となる勉強会では、“暮らしに必要なプロジェクトをつくる業”として、まちびと会社「Visionarial」を運営する、おきなまさひとさんと中村路子さんをお招きしました。お二人の柱となる取組である、Chietsuku,PJT（チエツクプロジェクト）について話題提供を受け、計23名の参加者とともに、熱い意見交換が行われました。

開催概要

■開催日：2019.2.27（水）

■場所：まどかぴあ 301 会議室

■当日のプログラム

18：30 開会

◇第1回の振り返り

◇レクチャー

◇会場との意見交換

20：30 終了

■講師：おきなまさひと氏

中村路子氏

Visionarial 代表

Chietsuku,PJT メンバー

■司会：吉田まりえ氏

九州の暮らし創造

研究所 代表

まちなかの知恵と知恵がくっつく。そんな場所や出来事ってあったらいいよね？



まずはおきなさん・中村さんのお二人より、BGMの流れるゆるりとした雰囲気の中、自分達の経歴、そして活動のスタートとなる Chietsuku,PJT についてご紹介いただきました。『実はすでに久留米のまちの各エリアで、「自発的に活動しているまちびと」が沢山いて、「悔しいけど不思議で素敵なその人」に勇気を出して声をかけあう』、そして仲間とともに「この街でみんなで食っていくんです。」を合言葉に「知恵を共有」し、各自の役割を自分たちで考え、言葉にして行動することの可能性を説明いただきました。

Chietsuku,PJT により取り組んでいる具体的な事業として、挑戦する女性をサポートする「1000人女子会」や、企業との連携によるイベント運営「SORA-IRO 広場」、行政との連携によるフリースペースづくり「カタチの森」など、実践の話を紹介いただき、「じぶんサイズなまちづかい」の大切さについて学ぶことができました。

さらに、プロジェクトは様々な協働により進められる中で、じぶんたちの「地域のサイズ」を問うことが大切であり、現在も「地域サイズで自分たちの暮らしを豊かにするプロジェクトをつくる仕事」の中で、チームをはじめ、行政や企業、教育機関、学生さんなど、様々な「共感の連鎖」をつくるための工夫を行っていることをご説明いただきました。レクチャーの後半にはまとめとして、お二人が作りた暮らしについてお話いただき、「じぶんサイズとタイミングで、いつでも関わりあえる。乗り降り自由なジャンクション型のコミュニティ。その全体的なプラットフォームをまちにつくっていきたい。そのためにも『つなぎ役』が必要」との考え方、また「盛り上げないし。仕掛けない。巻き込まない。まずはじぶんから巻き込まれる。」ことが大切などといったご説明いただきました。その語会場との活発な意見交換が行われました。



参加者の声

レクチャーを受け、講師を交えた参加者同士のグループディスカッションにより、話題提供に対して感じたことや大野城のまちづくりについて自由に意見交換し、参加者同士で思いを共有しながら考えを深めていきました。



当日の意見交換

「勉強会で感じたこと」

- 自分も巻き込まれるタイプなので、今後何かに関わりたいと感じた
- まずは久留米に行って、一度体感してみたい
- 抜けたり入ったりできるゆるさがいい
- 尊敬できる人や共感できる人の集まりの大切さを知った。
- 言葉の力・すぐにわかるコピーの大切さを感じた
- 小さくつながる言葉が大野城にも必要

事後アンケートの意見

「勉強会で話合っていたいテーマ」

- あなたの楽しいコトとはなんだ
- 女性の集える場所づくり
- 大野城全体の賑わいづくり
- 高架下から始まる市全体の賑わい
- みんなの具体的な問題点や解決方法

